

■山県有朋 陸軍軍人、政治家。維新後の内乱鎮圧で政府中枢に昇り、藩閥政治を定着させ、軍国主義の体制に導いた。

やまがたありとも

適塾ホブソ 1838= 長門国萩城下で、藩の蔵元付仲間という軽輩の家に生まれる。

阿部正弘首座 1845= 7歳 :

..... 1847= 9歳 :

少年のころから槍術の修行に努め、

ペリー来航 1853=15歳 :

松下村塾 1856=18歳 :

五ヶ国条約 1858=20歳 : 京都に派遣され、諸藩の尊攘派と接触、吉田松陰の門下とも交わり、松下村塾に入塾。

桜田門外変 1860=22歳 :

..... やがて高杉晋作や伊藤博文らと尊王攘夷運動に挺身し、

生麦事件 1862=24歳 : 藩命で江戸に赴くも、

8月18日政変 1863=25歳 : 藩論一変で帰藩、外国軍艦への攻撃に加わった後、奇兵隊に参加して軍監となり、

禁門の変 1864=26歳 : 英・米・仏・蘭 4 国連合艦隊と交戦して敗れ、自身も負傷したが、第1次長州征伐を迎えて藩首脳が恭順屈服の態度をとったのに憤激して高杉らと挙兵し、俗論党を圧倒して藩政の主導権を握った。

薩摩藩士密航 1865=27歳 : 第2次長州征伐に際しては小倉方面の戦闘で奮戦。

明治維新 1868=30歳 : <戊辰戦争>には北陸道鎮撫総督兼会津討総督の参謀となり、長岡城の攻略戦で苦戦の末にこれを占領、会津若松城の攻囲戦にも参加した。

戊辰戦争終 1869=31歳 : 渡欧して軍制の調査・研究に従い、

初の日刊新聞 1870=32歳 : 帰国後、兵部少輔となり、大村益次郎横死後の兵部省にあって兵制改革を担当。

学問のすすめ 1872=34歳 : 陸軍大輔、陸軍中将となり、徴兵令の制定に努めた。

明治6年政変 1873=35歳 : \*陸軍卿になる。

佐賀の乱 1874=36歳 : 勃発した佐賀の乱には征討参軍として鎮圧に当たり、参議となって明治政府の中枢に席を占める。

西南戦争 1877=39歳 : 西南戦争にも征討参軍として出征、徴兵による新しい軍隊を率いて士族中心の西郷軍と対決、鎮圧した。

大久保暗殺 1878=40歳 : 新設の参謀本部長になる。

..... 1880=42歳 : 「隣邦兵備略」を上奏して対清戦争を想定した軍備の充実を説き、他方、「軍人訓戒」を起草して軍人に忠勇と従順の精神を喚起することに努めた。

明治14年政変 1881=43歳 :

新体詩抄 1882=44歳 : 伊藤が憲法調査のため渡欧したあとをうけて参事院議長、

岩倉具視没 1883=45歳 : 内務卿に転じて自由民権運動を弾圧。

国民之友始 1887=49歳 : 内相としては保安条例を公布して三大事件建白運動を抑え、議会開設に備えて地方制度の再編に着手、市制・町村制、府県制・郡制により地域の有力者支配を制度化、官治的性格の強い地方自治制を採用。

帝国憲法公布 1889=51歳 : \*第1次山県内閣を組織。「教育勅語」を頒布して国民教化のための基本理念を定め、

帝国議会始 1890=52歳 : 最初の帝国議会では民党による予算案の大削減に直面しながら妥協の道を探り、土佐派議員との提携に成功して解散を回避した。

大本教 1892=54歳 :

..... その後も、第2次伊藤内閣の法相、枢密院議長などを歴任し、

日清戦争始 1894=56歳 : 日清戦争には第1軍を率いて出征した。

白馬会 1896=58歳 : ロシア皇帝の戴冠式に特派され、外相ロバノフとの間で山県=ロバノフ協定を締結して行詰り状態にあった朝鮮問題に打開の道を開いた。

子規句歌革新 1898=60歳 : \*創設された元帥府に列し、元帥の称号を与えられ、これ以後、「陸軍の大御所」として同じ長州藩出身の桂太郎、児玉源太郎、寺内正毅らを陸軍省、参謀本部の要職に配置し、絶大な発言力を保持した。日本最初の政党内閣である隈板内閣(第1次大隈重信内閣)のあとをうけて第2次内閣を組織すると、憲政党と提携して懸案の地租増徴法案を成立させて日清戦後経営の財政的基礎を強化する一方、

Bushidou 1899=61歳 : 文官任用令を改正して政黨員の就官の道をせばめ、

ビア/国産化 1900=62歳 : 軍部大臣現役武官制の規定を設けて軍部内への政党の影響力排除を図った。このような彼の「政党嫌い」は政党への不信感にもとづくものであり、その姿勢は終生変わらなかった。義和団事件の收拾を終え退陣。

田中正造直訴 1901=63歳 :

..... 以後は元老として首相の選任や重要政策の決定に参画することになり、日英同盟の締結を推進し、日露戦争に際しては参謀総長として作戦指導に当たった。

日露戦争終 1905=67歳 :

伊藤博文暗殺 1909=71歳 : 伊藤博文がハルビンで暗殺されて以後は、陸軍部内をはじめ、官界、貴族院、枢密院や宮中にも山県直系の人物を配置して元老中で最も大きな発言力を有した。

大逆事件判決 1911=72歳 :

明治天皇没 1912=73歳 :

..... 日韓併合や辛亥革命後の対中国政策などでは強硬論を唱え、また、第2次西園寺公望内閣の末期に二個師団増設問題で陸相が辞任すると後任陸相の推薦を拒否して内閣を倒壊させ、あるいは第2次大隈内閣に対しても不信任を表明して退陣を促すなど、内閣の死命を制した。しかし、山県直系の桂太郎はしだいに山県の影響力から離脱し、寺内正毅も政権担当に当たって必ずしも山県の意向どおりに動かず、その勢威もようやく衰えを示すことになり、また、米騒動の激発や労働運動の高まりに対する処方策に苦慮した。本格政党内閣 1918=80歳 : 米騒動直後に政友会総裁の原敬を首相に推し、原の内外政策を基本的に支持するにいたったことは新しい時代に対応するために選ばざるをえない保身策でもあった。

ベル仁条約 1919=81歳 :

大暴落 1920=82歳 : 表面化したいわゆる官中某重大事件では、右翼や一部政治家の攻撃を受け、枢密院議長の辞任を申し出るという不測の事態を招き、その威信も大きく動揺するなか、

水平社結成 1922=84歳 : 没した。国葬となったが、参加者は意外に少なく、晩年の孤立を象徴するものとなった。

「日本史を変えた人物200人」、「日本史重要人物101」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、「日本の群像」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、歴史有名人の死の瞬間、